

新町まちづくり計画（新町建設計画）変更案パブリックコメントの意見  
見要旨と町の考え方

【意見要旨①】

基本的には変更を希望する箇所はありませんが、次の部分の展開にご検討を加えていただければ幸いです。

自然景観、特に黒髪連山は、近年の中高年の登山ブームに適合できる手近な観光資源となり得るものであり、農産物や歴史遺産と連携して観光施策を展開できるものと考えます。

また、地域別整備方針において、黒髪山周辺の山林地域等はそれぞれキャンプ地を要しており自然保護ゾーンとして整備を図るとありますが、有田ダムにある白川キャンプ場は、道路が袋小路となっており、キャンプ場として運営を続けるには問題があります。

最後に、観光振興の推進における具体的施策、事業として、観光整備の整備開発が挙げられていますが、陶磁器や棚田などの人文景観に加えて、黒髪連山及び竜門自然の家  
の自然景観も、効果的な観光資源となる要素を持っています。この自然景観の活用について明示されるようご検討をお願いします。

【町の考え方①（修正なし）】

旧西有田町は、西部には国見連山が南北に連なり、東部には黒髪連山を形成する山塊群がそびえており、国見連山の山肌を織りなす棚田や、黒髪山県立自然公園の一角をなす竜門峡など緑豊かな自然景観を有しています。これまで、自然環境に配慮した田園都市としてまちづくりが進められてきました。

新有田町においても、黒髪連山に代表されるような、この地域が有する自然景観は貴重な資源であり、産業や観光などにおいても、自然の恵みを活かし、さまざまな魅力や文化の構築に取り組んできました。

ご意見がありましたとおり、今後もこの貴重な自然環境を最も重要な地域資源の一つとして捉え、観光流入人口の増加を図るため、竜門山の家を始めとした自然観光施設の整備及び観光宣伝事業に取り組むとともに、各種関係団体との連携により、施設の有効利用を推進していきたいと思っております。

## 【意見要旨②】

2年後の日本磁器誕生・有田焼創業400年を控え、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりが望まれています。そうした中で、自然形状からくる住環境の利便性等の差による人口動態の変化、高齢化加速を危惧いたしております。特に上有田地区においては、狭隘な自然形状による住環境等がもたらす少子高齢化が加速しており、道路や駐車場、空き店舗の問題、コミュニティ活動の衰退等の課題が山積しています。こうした中で、有田町活性化の最大の課題は産業（窯業、農林業を主として）の振興もさることながら、いかにして人口を、特に若い人を増やすかであり、そのための魅力ある環境づくりを呈示し、実行し、解決することだと思えます。

そこで、老人にやさしく、土着思考の若人（マイルドヤンキー）を生み出す魅力あるまちづくり（スマートシティ）の実現を目指しましょう。そのためには、道路・交通体系の整備、有田小学校や有田工高及び窯業大学の環境整備、有田駅周辺整備等により有田町民の東西交流による調和ある発展“まちづくり”に取り組んでもらいたいと思えます。

## 【町の考え方②（修正なし）】

現在、まちづくり課において、地域住民が一体となってまちづくりを進めるために具体的な方策等を検討し、有田町“新生”まちづくりを推進するために、有田町地域まちづくり会議を設置しています。そこでは、小学校区ごとの地域部会の一つとして有田内山まちづくり会議を置いて、内山地区が抱える課題の解決に向けて前進していくために、地域、団体、行政などが連携しながら具体的な取組の実現を目指しているところです。

また、新町建設計画変更案における分野別施策・事業では、生活環境の充実と整備における具体的施策・事業として「◇人口増加と定住化の推進」を追加したところです。新有田町が活力ある発展を遂げていくためには、都市機能の充実、中心市街地の活性化、高齢者や障がい者の利便性の向上、快適な市街地の整備が欠かせない課題です。今後も、市街地整備を始めとした良好な住環境づくりに取り組むとともに、次代の地域づくりのために、地域産業を支える人材の育成を推進することによって、自分は有田で頑張りたいという人を増やしていくように努めて参ります。